

タイ夏期英語研修報告書

法学部法学科 1 年 須田拓実

1. 現地での勉強について

勉強についてです。タイの学校は日本の学校と違うところもあり、いろいろ驚きが多かったです。朝ワゴンに揺られて 10 分弱で大学付属の語学センターに到着し、授業を受けました。基本的には朝 3 時間、昼 3 時間の二コマ編成で、朝は文法の授業、午後はスピーチなどの授業ということでしたが、いろいろ「思っていたことと違う」ことが起こって面白かったのがここでした。まず、スピーチの授業はどの先生でも同じようにやっており、毎授業スピーチが課され、たくさん練習を積むことができて非常に役に立ちました。他方、文法の授業は先生のカラーが前面に出ていました。自分の好きな音楽や映像などをたくさん見せる人、ゲームを多用する人、ペアワークなどをたくさんやる人などで、授業の内容がかなり異なっていました。また、先生が遅刻するときもあり、5～10 分は普通に待たされることもありました。さらに、先生はアメリカ人かオランダ人でしたが、授業で使われる英語が聞き取りやすい人とそうでない人がおり、聞き取りにくい人の授業中は必死に先生の話、指示を聞かねばならないため、リスニングの練習として非常に役に立ちました。タイ語の授業も週 1 でありましたが、現地でほとんどタイ語を使う機会がなかったため、あまり習得できませんでした。ただ、結果としてたくさん英語を学び、活用する機会があったおかげで日常会話の英語などを身につけることができました

2. 現地での生活について

チェンマイでの生活は初海外だった僕にとって、とても新鮮なものでした。様々な体験をしましたが、特に驚いたもの、苦労したものをピックアップして伝えます。まず、タイは車社会のため、歩道はあまり整備されておらず、歩行者、自転車はあまり見かけません。道路は多くの車、原付が走っていて、大通りをタクシーに乗って移動していると排気ガスのにおいが鼻につくこともありました。また、大学のキャンパスも広く、道路が整備されているため、学生たちの大半は原付で移動し、残りは車、学内シャトルバスを使っているため、歩行者はほとんどいませんでした。このような状態なので、当然横断歩道などの整備は進んでいません。そもそも数が少なく、あっても 30 秒の時間制限が設けられ、青でも誰もいなかったら普通に車が走ります。横断歩道のないところでは、歩行者は車の流れの途切れ目を狙って渡らなくてはなりません。これが私が一番衝撃を受けたもので、多くの車が走る道路の合間を縫って渡る人の姿を見たときは、帰るまでに車にひかれて死ぬのではないかと考えてしまいました。

また、食事もなかなか大変でした。ホテルでは食事が出ないため朝晩は自分で何とかする必要がありますが、チェンマイの町には多くのレストラン、屋台、コンビニがあるた

め、毎晩様々な店に行くこともできたし、チェンマイ大の友人にお勧めの店を紹介してもらったこともあったので、食事選びで悩むことはありませんでした。しかし、衛生状況の悪い屋台もあり、僕はそこで肉を口にしまい、腹を壊して3日間寝込んだ上にメインイベントの一つ、ゾウに乗ることができなかったのです。

ですが、もちろん楽しいことも多く、大学主催のチェンマイ市内ツアーや、小学生、中学生の交流、1泊2日のスコータイへの旅などもあり、チェンマイ大の友人たちとの夕食や買い物、数日間与えられた free day での遊びなど、毎日楽しいこと、大変なこと色々あっておそらく自分の人生の中で最も濃い1か月を送ることができました

3. タイ研修で得たもの

私にとって初めての海外渡航がタイで、羽田に行くまで不安でいっぱい、行きたくないと思うほどでした。しかし、チェンマイで4週間過ごすという生活をしてみて、案外海外生活も普通のものなんだなと思うことができました。2週間くらいしたころから、タイでの生活が自分にとっての日常であり、日本での生活が非現実的に思えてくるほどでした。それくらい現地生活に慣れ、今後海外に行く上でのハードルが下がり、新たな発見を求めて他の国を訪れたいと思えるようになったことがこの研修での一番の収穫でした。これを読んでいる人たちの中には留学に興味はある、ただ海外に行くのは怖いと思っている人も多いはずです。そんな人にこそぜひ短期研修に行くべきです。行ってみれば案外何とかなります。自分の価値観を変えるために、この短期研修など様々なことに取り組んでみてください。